

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間:2007年10月上旬から11月中旬までの旬別
 対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業:さんま棒受網漁業
 対象魚群:南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量: 10月上旬は減少を始め、10月中旬には中位水準、10月下旬には低位水準となる。11月上旬にはほぼ終漁となる。
- (2) 漁場: 10月上旬は、霧多布沖～釧路沖と襟裳岬沖に漁場ができる。霧多布沖の漁場は10月中旬には消滅し、10月中旬～下旬は釧路～襟裳岬沖が漁場となる。釧路沖の漁場は11月上旬には消滅し、襟裳岬沖でも散発的となり終漁する。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 来遊量は徐々に増加し、10月上旬は低位水準、10月中旬～下旬は中位水準となる。11月上旬から減少を始める。
- (2) 漁場: 10月上旬の主漁場は、八戸～宮古沖となる。10月中旬には、漁場が三陸南部まで広がる。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 10月上旬～中旬は来遊量が少ない。10月下旬から来遊量が増加し、11月上旬には中位水準、11月中旬には高位水準まで増加する。
- (2) 漁場: 10月中旬は、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。来遊が本格化する10月下旬は、常磐北部が主漁場となる。11月中旬には、鹿島灘でも漁場ができる。

2. 予測の概要

海 域		10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	高位減少	中位減少	低位減少	断続的	
	漁 場	霧多布～釧路沖・襟裳岬沖	釧路～襟裳岬沖	釧路～襟裳岬沖	襟裳岬沖	
三陸海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位水準	中位水準	中位減少	中位減少
	漁 場	八戸～宮古沖	北部～南部	北部～南部	北部～南部	北部～南部
常磐海域	来遊量					
	動向		断続的	低位増加	中位増加	高位増加
	漁 場		北部	北部	北部	北部～鹿島灘

3. 漁況の経過概要

(9月中旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年を上回り、高位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、徐々に来遊量は増加した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石南～厚岸大黒島南の 15～40 海里付近(表面水温 12～17℃)と、釧路南南東～南南西の 25～35 海里付近(17℃)及び襟裳岬東南東～南東の 25～40 海里付近(17～18℃)であった。落石～厚岸大黒島沖では、ほぼ連日大型船数隻～20 隻程度と、小型船の多くが操業した。漁獲量は大型船で 70～100トン以上、小型船は満船となる船が多かった。釧路沖では、11～12 日夜と 18 日夜に大型船数隻が操業、70トン以上漁獲する船もあった。襟裳岬沖では、14 日夜以降ほぼ連日大型船が数隻～30 隻程度操業、80～100トン以上漁獲する船が多かった。

(3) 魚体

30cm モードの大型魚が主体で、26cm モードの中型魚が混じる。中型以下の魚の混じり具合は、日によって異なり 1～6 割程度。体重 150～160g 台が主体。